

# ういやまだよい

## Contents

- ★HPSの紹介
- ★総合周産期母子医療センター  
産科・新生児科
- ★部署の紹介「栄養調理課」
- ★野鳥の世界・編集後記
- ★外来予定表

2022.1月  
Vol.8



## 発行

群馬県立小児医療センター  
〒377-8577 渋川市下箱田779番地  
TEL. 0279-52-3551 (代表)  
TEL. 0279-52-4000 (予約専用)  
TEL. 0279-52-7171 (地域医療連携室)  
FAX. 0279-52-7333  
URL: <http://www.cmc.pref.gunma.jp/>

## お知らせ (HPSのご紹介)

ホスピタル・プレイ・スペシャリスト(HPS)をご存じでしょうか。

HPSとは、医療を受ける子どもが医療との関わりや経験を肯定的に捉えることが出来るようにするために支援をする専門職です。家族、きょうだいも視野に入れ、子どもに優しい医療環境を目指しています。活動の中心にあるのは、子どもにとって大切な『遊び』です。子どもの不安や疑問を分かりやすく解決するためのツールの作成や提供、採血や処置中の遊び介入(ディストラクション)で苦痛緩和や痛みの軽減、きょうだいと病院をつなげる関わりなどを取り入れ、“遊びの力”で病院という場でも子どもらしく輝いて過ごせるよう活動しています。



矢島 美季  
狩野 美紀



マアシストに使う道具

苦しくても大切な処置と捉えられるよう、  
子どもと一緒に作成した本



採血中のディストラクションの様子

## 診療科の紹介

## 産科

## 産科部長 京谷琢治



当科は、2005年5月に県内唯一の総合周産期母子医療センター産科として開設され、今年で16年目を迎えました。病床数はMFICU6床を含む18床で、県内最多病床数のNICUを有する新生児科をはじめ、外科、循環器内科、心臓血管外科、形成外科など各分野の小児専門医と連携しながら、早産や胎児先天性疾患を中心とした診療を行っています。

当科の年間出生児数は、最近5年間で平均250人と決して多くはないですが、そのうち40～50%が2500g未満の低出生体重児で、なかでも1000g未満の超低出生体重児は10%に達します。多胎妊娠が総分娩数の10%を占めるのも特徴的です。また、当センターは、毎年県内で最も多くの母体搬送/新生児搬送を受け入れており、母体搬送受入数は80件程度で、受け入れ率は年々増加し、ここ2年間は80%以上となっています。

一方で、小児専門施設のため、前置胎盤や産後出血、合併症妊娠などの母体ハイリスク症例に対応することは難しく、これらの疾患については、群馬大学医学部附属病院や前橋赤十字病院などの高度急性期病院に紹介させていただくなどしています。



先天性疾患の胎児診断には、胎児計測などの一般的な産科超音波検査以上に高度な技術とより専門的な知識が必要不可欠です。当科では、胎児心エコー認証医やFMF 11-13 weeks scan licenserといったエキスパートが日々診療にあたっています。また、胎児超音波検査以外にも、経験豊富な放射線技師と放射線科医による胎児MRI検査は県内随一の精度をほこります。これらによって正確な出生前診断を行うことで、多職種と連携しながら周産期を通じて一貫した治療を提供することができています。特殊診療として、他院で健診中の妊婦を対象にした胎児超音波スクリーニング外来を行っています。早産での出産歴がある、あるいは先天性疾患の家族歴がある、といった方の妊娠前相談なども受けつけています。

総合周産期母子医療センターではありますが、分娩取扱い施設も減少傾向にありますので、特にリスクのない方の分娩や里帰り分娩も常時対応しています。現状では、分娩数制限も行っておりません。また、助産師を中心に母乳外来や産後ケア（宿泊型と日帰り型）にも取り組んでいます。

県内外を問わず、産科施設の先生方や患者様からのご紹介、ご相談をお待ちしておりますので、是非お気軽にご相談ください。



総合周産期母子医療センター長

第二内科部長 丸山憲一



全国平均を上回っていた群馬県の乳児死亡率を改善することを目的として、当院は 1982 年に開院しました。新生児科は開院以来 39 年間、当院の開院当初の目的に沿って、群馬県内の重症の赤ちゃんの診療において中心的な役割を担ってきました。

開院から 23 年間は院内に産科がなかったため、重症の赤ちゃんは当科の医師が新生児専用救急車で産科医療機関に迎えに行かなければなりません。2005 年に産科が開設され、県内で唯一の総合周産期母子医療センターの指定を受けることができました。これにより、早産児や先天異常などのハイリスクの赤ちゃんを出生前から管理することができるようになりました。現在、保険認可 NICU15 床、GCU18 床を有し、年間の入院数は 200 人から 300 人台で推移しています。このうちの 6 割ほどが院内で出生した赤ちゃんです。

当科では人工呼吸管理はもちろん、一酸化窒素吸入療法、低体温療法、血液浄化療法など最先端の高度医療を行うことができます。また、当科に入院してくるハイリスクの赤ちゃんには様々な合併症があることが少なくありません。当科の強みは、小児病院にあるため、こうした赤ちゃんに対して、小児科の各専門領域の医師や小児外科、心臓血管外科、整形外科、形成外科など院内各科と連携して診療に当たることができることです。



当科に入院してくる赤ちゃんの半数以上が出生体重 2500g 未満の低出生体重児です。出生体重が 1000g 未満の超低出生体重児の入院は年間 30 人前後ですが、このうちの 90%以上が生存退院できています。在胎 22 週といった極めて未熟性の強い赤ちゃんや、出生体重 300g 台の非常に小さな赤ちゃんも救命できるようになっています。

重症の赤ちゃんを救命することができるようになった反面、様々な病気をかかえ、自宅に退院するのが難しい赤ちゃんも出てきています。そのような赤ちゃんについても、できるだけ自宅で過ごすことができるように院内、院外の関係者と協力体制を整えています。酸素療法、人工呼吸療法、経管栄養療法といった医療的ケアを行いながら退院し、在宅医療へ移行できた赤ちゃんも少なくありません。

これからも入院中から退院後までハイリスクの赤ちゃんが健やかに育つことができるよう診療にあたっていきたいと考えています。



## 管理栄養士 島田純子さん（栄養調理課長）



### Q1.小児医療センターの栄養調理の特徴を教えてください。

乳幼児・学童・妊産婦と幅広い年齢層の患者さんに対応した食事づくりをしています。特に成長過程の子供は、各年齢により必要とする栄養量が大きく変化するので、献立の区分を次のように分けています。「離乳食」は4区分（初期・中期・後期・完了期）、「常食」や「全粥食」は、「幼児食」2区分、「学童食」4区分、そして「妊産婦食」1区分です。「常食」だけでも主食・主菜・副菜の分量が異なる献立が7つあり、「全粥食」や「糖尿病食」「肝臓食」「高脂血症食」などの特別食も同様です。

また、調乳（ミルク作り）も小児病院ならではの業務です。普通ミルクや低体重児用ミルク、特殊ミルク、経管栄養剤など1日に40種類近いミルクを作っています。一人ずつ指示の濃度と分量どおりに哺乳びんに注ぎ分け、患者ID・氏名・ミルクの種類・濃度・量が記載されたラベルを1本ずつ貼り付けます。1日分を一括して調乳しており、毎日約500～600本分のミルクを病棟へ運んでいます。

最近では、「食物アレルギー負荷試験」の患者さんが増え、週3日・1日3名程度の頻度で負荷試験用の食品提供も行っています。そのままの食材では食べられない患者さんには、「卵白入りハンバーグ」や「卵白入り蒸しパン」「全卵入りお好み焼き」など特別に調理し、決められた時間に提供しています。平成29年10月に調理業務が一部委託になったことから、委託業者と月1回の定例会議を開催しつつ、日々の情報を交換し連携をとって食事・ミルクづくりを行っています。

### Q2.調理等の中で大変なことはなんですか？

一番気をつけていることは、食中毒を出さないための衛生管理です。安全で安心な食事を提供するため、納品時の食材確認から、調理温度や保管時間の管理など徹底して行っています。新鮮で質の良い食材を納品してもらうことは、美味しさに直結します。そして、食事は食べないと栄養になりませんから、できる限りの注文にも応え、召し上がっていただけるよう美味しい調理に心がけています。

特に、食物アレルギーの食事には、細心の注意を払っています。複数の食物アレルギーをお持ちの患者さん多いので、全く別の献立をたてることもあります。アレルギー除去の対応としては、アレルギー物質を含む食品を除去するだけでなく、「同じ工場内でそのアレルギーを含む製品を生産している」と表示されている場合は、食材そのものには含まれていなくても提供していません。また、臨時で依頼されるミルクは電話連絡のため、必ず患者IDとミルクの種類と濃度を復唱し、聞き間違いと手書きで作成するラベルの書き間違いをしないよう注意しています。食事でもミルクも提供前には、ダブルチェックを行い、複数の目で指示と異なっていないか確認をしています。

### Q3.患者様に喜んでいただくために工夫していることがありますか？

元旦の「おせち料理」から「ひな祭り」「こどもの日」「クリスマス献立」など1年間のいろいろな行事に合わせ、メッセージカードと一緒に行事食を提供しています。産科病棟と第3病棟では、選択食も行っています。産科は平日、第3病棟は水・木曜日のいずれも夕食に通常献立か選択食のどちらか好きな献立を選んでもらいます。

また、果物など旬の食材で季節を感じてもらえるよう献立も工夫しています。希望があれば、「お食い初め膳」も提供しており、好評をいただいています。



お食い初め膳



こどもの日の献立



## 副院長の『野鳥の世界』 [小林副院長が撮影した野鳥をご紹介します]



### カワセミ

全長 17cm。くちばしは体の割りに長い、魚取りにすぐれた鳥です。巣は土崖に横穴を掘ってつくります。

溪流や池沼などを見下ろす木の枝に静かにとまっていて、水中の獲物をとったり、水面をかすめて一直線に速く飛んだりしています。羽色が鮮やかで、翡翠（ひすい）のような体色から、飛ぶ宝石ともいわれ、その美しさは古代から注目されていました。

小林先生お気に入りの一枚です。



### ミヤマホオジロ

*Emberiza elegans* という学名です。黄色いネクタイとキャップがおしゃれなんでしょうね。

全長 15.5cm。肩斑と喉が黄色いホオジロの仲間。オスには冠羽、胸、目を含む横顔に黒褐色があり、目立ちます。メスは同部分が褐色で、薄い色に感じます。興奮すると頭が三角形に立ちます。

## 編集後記

新年あけましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。

昨年は一昨年と同様、新型コロナウイルスに振り回された年となりました。ワクチン接種センターや宿泊療養施設への派遣など、本来業務以外で労力が必要となり、大変な1年を過ごされた方も多いと思います。大変お疲れさまでした。

私事ではありますが、新型コロナの影響で趣味であるオートバイに乗る機会が多くなりました。何処にも連れて行けなかった息子もバイクに乗って出かけることが好きになり、一緒にツーリングに出かけることが多くなりました。群馬県は山など自然が多いため、ツーリングに適している土地だと思ひます。オミクロン株の話も出ていますが、本年こそ、以前のようにお酒を飲み交わすことができる世の中に戻ってほしいと思ひています。(鳥)

委員長：野村 滋

編集：福田 円

委員：今井正浩 福島義明 宮川祐子 鳥越和哉 瀬下明日香 蜂須 愛

# 群馬県立小児医療センター 外来診療予定表

(令和4年1月1日現在)

診療科		月	火	水	木	金	備考
内科	総合診療科	午前	清水 彰彦 森田 孝次	鈴木 江里子 清水 彰彦 外来点滴治療	森田 孝次 鈴木 江里子	西山 邦幸 野村 滋 外来点滴治療	鈴木 江里子 清水 真理子
		午後	鍋木 多映子 山口 有	石北 悦子 椎原 隆	山口 有 鍋木 多映子	野村 滋 渡辺 美緒	森田 孝次 野村 滋
	神経内科	午前	椎原 隆	森田 孝次	渡辺 美緒	鈴木 江里子(第1・3・5週) 椎原 隆(第2・4週)	椎原 隆
		午後	渡辺 美緒				
	循環器科	午前	池田 健太郎 小林 富男(第1・3・4・5週) 中島 公子(第2週) (予約:医師のみ)		池田 健太郎		新井 修平 池田 健太郎(第1・3週) 小林 富男(第2・4・5週)
		午後	池田 健太郎 (13:00~15:00) 浅見 雄司 (13:00~15:30)	下山 伸哉	小林 富男 (13:00~15:30) 池田 健太郎 (13:30~15:00)		中島 公子 (第4週は予約:医師のみ) (13:00~15:00) 新井 修平(予約:医師のみ) (13:00~14:00)
	血液腫瘍科	午後	外松 学 (14:00~)	河崎 裕英 鍋木 多映子 (何れも14:00~)	河崎 裕英(予約:医師のみ) 大和 玄季 (何れも14:00~)	石北 悦子 (14:00~)	
腎臓内科	午後		丸山 健一(第1・3・5週) (13:30~16:00) 池内 由果(第2・4週)			鎌 裕一(第2・4週) (13:00~16:00)	
アレルギー・ リウマチ科 感染症科	午前					山田 佳之(第2・4週)	
	午後	清水 真理子 (14:00~14:30:初診)	野村 滋(リウマチ・アレルギー) (14:00~14:30:初診) 清水 彰彦(感染症・免疫)	滝沢 琢己(第1・3・5週) (13:30~:再診,14:00~14:30:初診) 清水 真理子(第2・4週) (14:00~14:30:初診)	アレルギー科医師 (予防接種等) 野村 滋(休診) (膠原病・免疫)	清水 真理子(第1・3・5週) (14:00~14:30:初診) 山田 佳之(第2・4週)	
外科	一般外科	午前		小山 亮太	高澤 慎也(第1・3週)	五十嵐 昭宏 西 明(第2・4週) (9:00~10:30)	
		午後		小柳 地洋 西 明(第1週) 則内 友博(第2・4週) 五十嵐 昭宏(第3・5週)			西 明/則内 友博 小柳 地洋(第1・3・5週) (13:00~15:30:初診) 小山 亮太(第2・4週) (13:00~15:30:初診)
	心臓血管外科	午前			岡村 達 松永 慶廉 (何れも10:00~)		岡村 達 松永 慶廉 (何れも10:00~)
		午後			岡村 達 松永 慶廉		岡村 達 松永 慶廉
	形成外科	午前	浜島 昭人/齊藤 景 (9:00~10:00:初診)			浜島 昭人/齊藤 景 (10:00~11:00:初診)	
		午後	浜島 昭人 齊藤 景			浜島 昭人 齊藤 景 (14:00~)	
	整形外科	午前	浅井 伸治/富沢 仙一 (午前:再診、午後:初診)		浅井 伸治/富沢 仙一 (午前:再診、午後:初診)		浅井 伸治
脳神経外科	午後		藤巻 広也(第2週) (14:00~16:00)				
総合周産期母子医療センター	新生児科	午前		井上 文孝(第3週) (新生児・退院支援)			
		午後	丸山 憲一 鍋木 浩太		小泉 亜矢 宮川 陽一	丸山 憲一 福田 一代	市之宮 健二
	産科	午前	産科医師	産科医師	産科医師	産科医師	産科医師
		午後	産科医師 (14:00~16:00:初診)	産科医師 (14:00~16:00:初診)	産科医師 (14:00~16:00:初診)	産科医師 (14:00~16:00:初診)	産科医師 (14:00~16:00:初診)
	胎児心臓外来	午前					循環器科医師
	胎児超音波 スクリーニング外来	午前	産科医師	産科医師	産科医師	産科医師	産科医師
	母乳外来	午前					
午後				助産師			
特殊専門外来	麻酔科	午前		廣木 茜		坂本 崇	松本 直樹
		午後	麻酔科医師(術後)	麻酔科医師(術後)		麻酔科医師(術後)	麻酔科医師(術後)
	放射線科	午前		畠山 信逸			
	遺伝科	午前	山口 有(予約:医師のみ)				山口 有
		午後					
	歯科・障害児歯科	午前	木下 樹 大嶋 瑛	木下 樹 大嶋 瑛	木下 樹/大嶋 瑛 大嶋 瑛	木下 樹 大嶋 瑛	大嶋 瑛 木下 樹 大嶋 瑛
		午後(14:00~)					
	耳鼻咽喉科	午前			松山 敏之(第1・3・5週) (9:00~11:00)		
		午後	紫野 正人(第1・3・5週) 高橋 秀行(第2・4週) (何れも15:00~)				※2
	眼科	午前			平形 恭子(第2・4週)		
小児精神科						※3	
内分泌代謝科	午後				大澤 好充(14:00~)	※2	
リハビリテーション	午前	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士 作業療法士 言語聴覚士	理学療法士/作業療法士 言語聴覚士 浅井 伸治 (リハ外来、13:00~14:00)	
	午後						
心理検査	午前				臨床心理士		
心理カウンセリング	午後	臨床心理士	臨床心理士	臨床心理士		臨床心理士	
予防接種	午後					(第1・3週:13:00~15:00)	

※1: 外来診療の開始時間は、注記のあるものを除き、午前は9:00、午後は13:00から

※2: 耳鼻咽喉科、内分泌代謝科、脳神経外科、眼科につきましては、都合により当分の間、新規紹介の受付ができませんのでご了承願います。

※3: 小児精神科外来につきましては、平成28年4月1日より当分の間、休診とさせていただきます。